

第2版

# ジオ・パルNEO

## 地理学・地域調査便利帖

野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原文明

編 著



海青社

第2版

# ジオ・パルNEO

## 地理学・地域調査便利帖

野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原文明  
編 著



左上：中国四川省成都市・洛帶鎮の屋台 中上：キューバ・サトウキビプランテーションの見張り塔 右上：岐阜県・白川郷  
左下：クロアチア・ドゥブロブニク旧市街の夜景 右下：東京都心の夜景

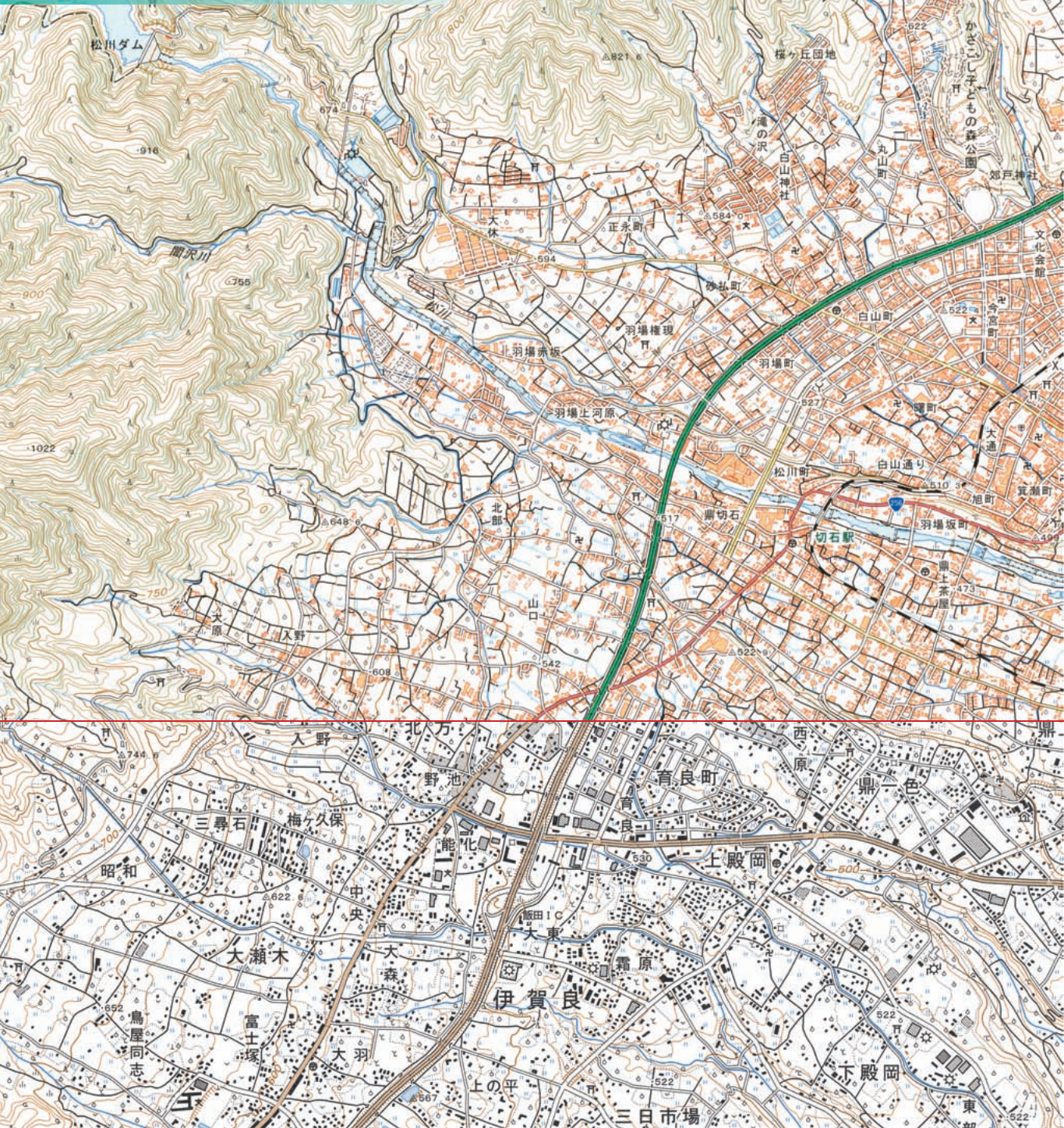


海青社

このプレビューでは表示されないページがあります。



## 2. 新しい地形図の表現を知る



- |            |             |      |           |        |       |       |
|------------|-------------|------|-----------|--------|-------|-------|
| 4車線以上の道路   | 幅員3.0m未満の道路 | 高速道路 | 単線 駅 複線以上 | 建設中    | J R 線 | 擁壁    |
| 2車線幅員13m以上 | 徒歩道         | 橋・高架 | トンネル      | J R線以外 | 特定地区界 | 送電線   |
| 2車線幅員13m未満 | 庭園路         | トンネル | 都道府県道     | 地下の鉄道  | 特殊鉄道  | 空間の水路 |
| 1車線の道路     | 石段          | 雪覆い等 | 有料道路      | 路面の鉄道  | リフト等  |       |

- |             |     |     |       |    |    |       |    |
|-------------|-----|-----|-------|----|----|-------|----|
| 油井・ガス井      | 探鉱地 | せき  | 港湾    | 田  | 竹林 | 広葉樹林  | 雨裂 |
| 噴火口・噴気口     | 坑口  | 水制  | 漁港    | 畑  | 笹地 | 針葉樹林  | 土産 |
| ダム          | 水門  | 滝   | 渡船    | 茶畑 | 荒地 | ハイマツ地 | 岩産 |
| 史跡・名勝・天然記念物 | 温泉  | 果樹園 | ヤシ科樹林 | 岩  |    |       |    |

1:25,000



索引図

南木曾岳	安平路山	伊那大島
兀岳	飯田	下市田
伊那駒場	時又	上久堅

地域図







- |                         |             |             |           |       |       |         |       |      |      |
|-------------------------|-------------|-------------|-----------|-------|-------|---------|-------|------|------|
| — — — 都府県界              | ■ ■ ■ 普通建物  | △25.7 三角点   | ◎ 市役所     | ⚡ 裁判所 | ⊕ 保健所 | × 小・中学校 | Ⓜ 博物館 | □ 高塔 | ⌄ 墓地 |
| — · — · — 北海道総合振興局・振興局界 | ■ ■ ■ 堅ろう建物 | △90.6 電子基準点 | ○ 町村役場    | ⚡ 税務署 | ⊕ 警察署 | ⊕ 高等学校  | 📖 図書館 | 🏭 煙突 | ⚡ 神社 |
| — · — · — 市区町村界         | ■ ■ ■ 高層建物  | △29.8 水準点   | Ⓜ 官公署     | ⚡ 消防署 | × 交番  | 🏠 老人ホーム | 🗿 記念碑 | 🚗 風車 | Ⓜ 寺院 |
| — — — 所 属 界             | ■ ■ ■ 温室等   | △313 標高点    | —52— 水面標高 | ⚡ 病院  | Ⓜ 郵便局 | ⚡ 発電所等  | 📡 電波塔 | 🏮 灯台 | 🏰 城跡 |

**地形図図式と記号(国土地理院発行2万5千分1地形図)**

(上:「飯田」(平成27年10月調製、平成25年2万5千分1地形図図式)、下:「時又」(平成19年更新))

地形図上の赤線は多色刷新図式の「飯田」と三色刷新図式の「時又」の接合部を示している(表示範囲は左ページ下部にある索引図の赤線部分)。2万5千分1地形図の図式は、昭和61年図式(カバー袖参照)が整理され、平成14年に新しい図式が定められた。「老人ホーム」、「博物館・美術館」、「図書館」、「風車」は新たに定められた記号である。さらに平成25年に新しい図式が定められた。市街地や集落は赤色系が施され、高速道路(番号表記の変更を含む)・国道・都道府県道の種別ごとに色別された。地形図の特徴ともいえる地勢は等高線とともに緑色系の陰影が加えられた。これまで発行されてきた地形図と区別するために多色刷2万5千分1地形図と呼ばれている。この地域の地形図の読図については本文で記している(第6章6.2参照)。↑印は本文図6-6-4の撮影方向。



このプレビューでは表示されないページがあります。

## はじめに

この本は大学で地理学や地域に関する学問(地域学、地域政策学、観光学、地域環境学、エリアスタディーズなど)を学ぼうとする学生の皆さんが、学習・研究にあたって心得ておくべき基本的事項とその技術をコンパクトにまとめたハンドブックです。2012年に新しいタイトルと内容構成で一新した『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖』ですが、すでにそれから5年経ちました。その間に大学での地理学やその関連分野での研究内容が変化し、手法の革新も見られます。高等学校「地理」では、文科省が2015年11月に「地理総合」を「歴史総合」とともに必修科目とすることを決定し、今後ますます大学での地理学も重要性を増してくるでしょう。

学生の関心も都市の機能分析や地形発達史のようなオーソドックスなものから、まちづくり、農工商連携、介護福祉などのサービス、地域再生、環境、多様化するツーリズム、世界遺産・ジオパーク、文化産業などの分野に、関心が向かっています。それでも地理学の基本となる見方・考え方・技術・手法には確固としたものが底流として存在します。その“勘どころ”となる学習・研究のための情報を、できるだけ網羅的かつ詳細に提示しようというのがこの本の四半世紀の歴史\*のなかで貫いてきた哲学です。大学レベルの教科書でこれほど息の長い本自体が珍しいのですが、それは本書が多くの大学での地理学の基礎と応用を学ぶための定番のテキストとして、大学を卒業して社会に出てからも参照されてきたことの証でもあると自負しています。最初にこの本を企画された浮田典良先生が鬼籍にはいられて12年になります。その意志を引き継いで、常に新しい要素を取り入れながら、図表も入れ換えて今回の改訂を進めて参りました。

今回の改訂のチャームポイントは以下の4点です。

1. 全体を「イントロ」、「スタディ」、「アドバンス」の3部構成にして、さまざまな学部、コースの学生のレベルに対応できるようにしたこと。これは文科省が現在推進しているアドミッション(入口)、カリキュラム(内容)、ディプロマシー(出口)に対応します。
2. 現在の学生の関心や知識量を考慮して、よりわかりやすく、入門しやすい本をめざしたこと。とくに地域学部・観光学部のような新しく誕生した学部での利用や、教員免許取得のための地理学の基礎を学ぶ人のための配慮をし、巻末には索引をつけました。
3. カラー口絵「ようこそ地図・グラフィックの世界へ」を一新し、大学生として知っておくべき主題図や地形図、最先端のグラフィック世界の一端を紹介したこと。
4. 日進月歩の地理情報システム(GIS)、国土地理院の地図類(電子国土基本図、地理院地図)、さまざまな情報検索術を、高価なソフトウェアを用いることなく利用できるノウハウを重点的に解説したこと。

この本を利用される皆さんは、まず「イントロ」(導入)を読んで大学での地理学が高校の地理とはどう違うかを理解するのがいいでしょう。高校「地理」と大学「地理学」の接続を図ること、大学で学ぶ地理学や地域に関する学問分野にはどんな専攻・コースがあり、そこでどんなことが教授されるの

かを俯瞰すること、大学で地理学やその関連分野を学んだ後、それをいかに就職や社会で活かすことができるかという入口と出口の問題が第1部の「イントロ」です。

第2部の「スタディ」(本編)はこの本の心臓部です。それぞれの専攻・専修・コースなどで、ぜひ知っておくべき内容、レポートや卒業論文を書く際の心得などを厳選して提示しました。大学学部生向けテキストとしては盛りだくさんで、図表も満載されています。教える側では適宜取捨できる配慮もしました。さらに詳しく学ぶ際のヒントや文献も数多く掲載していますので参照してください。

最後の第3部「アドバンス」(展開)は現代地理学の動向や学界の流れ、さらに大学院に進学して研究を進める際に有用な情報、地理学の応用的側面などを盛り込みました。専攻・コースによってはこの部分は省いていただいて構いませんが、本格的に勉強・研究しようとする場合は、ぜひこの部分を手がかりに、地理学の大きな裾野にチャレンジしてください。

『ジオ・パルNEO』初版の刊行後、おもに自然環境関係やGISを中心に協力いただいた河角龍典氏が2015年春に夭折されたことは痛恨の極みでしたが、今回新たに山田周二氏に加わっていただき、より教育の面に特化して、この分野を中心に全面的に内容を改めることになりました。

この本の特色は海青社の編集スタッフをまじえて、内容の選択や図版、提示する資料について議論を重ねたことで、そういう意味では分担執筆ではなく、全体が共著となっています。

本書はもともと、大学で地理学を専攻・専門に学ぶとする学生や、教員免許取得のために教科に関する専門科目として地理学を履修する学部生を念頭に置いて編集した教科書です。しかし、小学校、中学校、高等学校等で、社会科や地理歴史科、公民科を担当している教員の方や、自治体やシンクタンクでも参考になるでしょう。また、初等・中等教育での「総合学習」で、環境や地域調査、国際化や情報化など、さまざまなテーマを考える際の具体的な手がかりも本書から得られます。環境問題や高齢化社会の福祉など具体的に地域で考え、実際に政策を立案したりする際にも、この本で学んだ手法が役立つでしょう。さらに、地理学や地域に関心をもった一般読者や他分野の研究者にも、地理学という学問の性格と特色の一端を伝えることができれば望外の喜びです。

グローバル化・情報化が円熟してきた現在、どのような学問を学ぶにあたって、これまで以上に学問の壁をとりはらって総合することが要請されています。地理学の大きな特色の1つは、その間口がきわめて広いことで、その学習・研究に必要な基本事項を網羅しようとすれば際限がありません。その「知識の海」から何を精選するのか、われわれは何度も議論しましたが、まだまだ改善の余地があります。今後も鋭意、内容をアップデートして改良し、より優れた教科書、便利帖として進化していきたいと考えています。お気づきの点があれば、出版社、著者までお知らせいただけたら幸いです。

2017年3月 早春の比良と淡海の斜映のなかで

著者を代表して 野間晴雄

- \*① 浮田典良編『ジオグラフィック パル—地理学便利帖(1994-95年版)』1993年11月。初版:白表紙。
- ② 浮田典良編『ジオグラフィック パル—地理学便利帖(1998-99年版)』1998年3月。改訂増補版:濃青表紙。
- ③ 浮田典良・池田 碩・戸所 隆・野間晴雄・藤井 正編著『ジオ・パル21—地理学便利帖』2001年3月。第1刷～第4刷:赤表紙。
- ④ 野間晴雄・香川貴志・土平博・河角龍典・小原文明編著『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖』2012年3月。初版第1～第2刷:緑表紙。

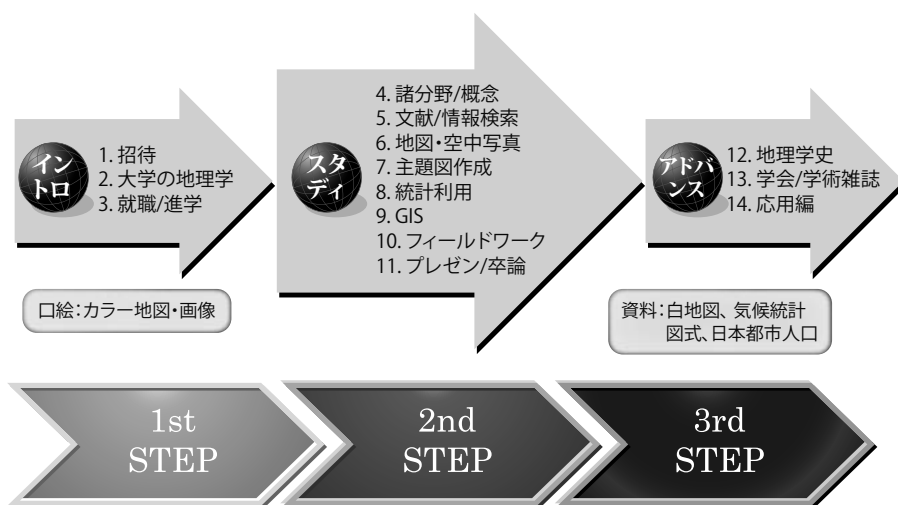


第2版

# ジオ・パルNEO

地理学・地域調査便利帖

## 目次



本書ではできるだけ多くの参考文献を挙げた。読者の便を考え、文献には次のような記号を付して、その区別を示した。

◎印はその事項に関する参考文献

◇印(第12章のみ)はその学者の代表的著作



## ようこそ 地図・グラフィックの世界へ

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>1. 災害のリスクを知る</p> <p>A. いばらきデジタルまっぷのハザードマップ</p> <p>B. 京都市左京区の地震ハザードマップ</p> <p>2. 新しい地形図の表現を知る</p> <p>地形図図式と記号</p> <p>3. 土地の使われ方を表現する</p> <p>A. 東京・多摩地域の土地利用</p> <p>B. 東京・23区の土地利用</p> <p>4. さまざまな規制を地図で知る</p> <p>A. 京都市都心部の用途地域図</p> <p>B. 京都市都心部の高度規制図</p> <p>5. 地形の分布状況を把握する</p> <p>大阪平野の土地条件図</p> | <p>6. 微地形を可視化する</p> <p>濃尾平野のデジタル標高データ</p> <p>7. 大量の時空間情報をGISで魅せる</p> <p>京都市市街地の1912年の地価分布</p> <p>8. 宇宙から地表を探る</p> <p>高度681kmから見た羽田空港</p> <p>9. 津波による被災状況を判読する</p> <p>仙台空港付近の津波被災マップ</p> <p>10. 津波による被害に備える</p> <p>津波浸水予想区域図</p> <p>11. 浮かび上がる地形を読む</p> <p>沖縄県波照間島付近のデジタル空中写真ステレオ画像と地形図</p> <p>12. 明治の村のかたちをみる</p> | <p>地租改正地引絵図</p> <p>13. 地図で江戸時代にタイムスリップ</p> <p>A. 驚くべき伊能図の測量技術精度</p> <p>B. 江戸時代の道路地図—江戸時代の町並みを知る—</p> <p>14. 主題図表現の色使いにこだわる</p> <p>A. 階級区分図の例</p> <p>B. 階級区分図の凡例の作り方</p> <p>15. 鳥の目で観光スポットを眺める</p> <p>大津鳥瞰図</p> |
|--|---|--|

はじめに.....1



## イントロ

9

第1章 これから地理学を学ぶ人のために.....10

1. 地理学で身につく考え方と技術・技能.....10
- (1) 地理学とはどんな学問か (2) 身近な地域調査からの発見 (3) 新しい地理学の動きを見据える
2. 「学校地理」と大学での地理学のちがい.....18
- (1) 大学入試の「地理」の位置づけ (2) 学習指導要領による小中高等学校の「地理」の内容

第2章 大学で学ぶ地理学.....23

1. 地理学を専門的に学ぶ.....23
- 1.1. 大学における地理学の源流.....23
- 1.2. 制度と実際.....24
- 1.3. 全国の大学の地理学教室・研究室.....25
- 1.4. 地理学が学べるさまざまな学部.....29
2. カリキュラムとディプロマポリシー(学位授与方針).....31
- 2.1. 講義系科目.....34
- (1) 概論(概説) (2) 地誌(地域地理学) (3) 特殊講義(特講、特論)
- 2.2. 実習・演習系科目.....34
- (1) 入門演習・基礎演習(プレゼミ) (2) 実習 (3) 文献講読 (4) 専門演習(ゼミナール)
- (5) エクスカーション(巡検)・フィールドワーク
- 2.3. 卒業論文.....36

第3章 地理学を学んで社会に出る.....37

1. 地理学がアピールできる技.....37
2. 地理学が活かせる職種.....39
- (1) 調べる (2) 企画開発する (3) 交渉する (4) サービスを提供する (5) 教える
3. 進学先としての大学院.....42
- (1) 大学院とはどんなところか (2) 入試と試験内容 (3) 大学院生の生活
- (4) 大学院修了後の進路
4. 資 格.....46
- (1) 地域調査士 (2) 測量士・測量士補 (3) GIS学術士 (4) 観光に関する資格



(5) 教員免許 (6) 学芸員資格 (7) 教養を高めるための検定試験



## スタディ

51

<b>第4章 地理学の諸分野と地域区分の概念</b> .....	52
1. 地理学の分野の分け方.....	52
1.1. 伝統的な分野の分け方.....	52
1.2. 日本地理学会による会員の専門分野・関心分野の分類およびその変遷.....	53
2. 分野の分け方の変化.....	55
2.1. 『地理学文献目録』における大分類の変遷.....	55
2.2. 分野の分け方に関する新たな動向.....	59
3. 地誌学における地域区分の概念.....	59
3.1. 等質地域と機能地域.....	59
3.2. 形式地域と実質地域.....	60
<b>第5章 地理学研究のための基本文献と情報検索</b> .....	61
1. 講座・大系・辞典類.....	61
1.1. 講座・大系類.....	61
1.2. 辞典類(事典類).....	62
2. 文献目録による文献の検索.....	63
2.1. 地理学に関する文献目録.....	63
2.2. 『地理学文献目録』による検索.....	64
2.3. 地理学文献データベース.....	65
3. インターネットによる情報検索.....	66
3.1. 情報検索の方法.....	66
3.2. 検索の際の留意点.....	67
3.3. ホームページ等を参考文献にする場合の注意点.....	68
<b>第6章 地図類と空中写真・衛星画像の利用</b> .....	69
1. 地図の分類.....	69
(1) 作成の方法による分類 (2) 形態による分類 (3) 体裁による分類 (4) 色彩による分類	
(5) 表現による分類 (6) 縮尺による分類	
2. 国土地理院の地図類.....	70
2.1. 国土地理院発行の一般図.....	70
(1) 地形図作成方法の変化 (2) 電子国土基本図 (3) 地形図 (4) 地勢図と地方図	
(5) 集成図 (6) 地形図と地勢図の相互関係 (7) 地理院地図 (8) 旧版地形図の利用	
2.2. 陸地測量部による地図.....	79
(1) 日本国内 (2) 外邦図	
2.3. 地形図から地域の変化を知る.....	80
2.4. 国土地理院の主題図.....	80
(1) 土地利用図 (2) 2万5千分1土地条件図 (3) 都市圏活断層図 (4) ナショナルアトラス(日本国勢地図帳) (5) その他の主題図	
3. その他の地図類.....	82
3.1. 国土地理院以外の公的機関の地図.....	82
(1) 土地分類基本調査(図・説明書) (2) 地籍図	
3.2. 民間の地図.....	83
(1) 学校用地図帳類 (2) 一般地図帳 (3) 住宅地図	
4. 空中写真の利用.....	85
4.1. 空中写真の基礎.....	85
(1) 空中写真の種類 (2) 空中写真の見方・判読方法 (3) 空中写真の購入方法	
4.2. インターネットによる空中写真の閲覧と入手.....	88
5. 衛星画像.....	89
5.1. リモートセンシングと衛星画像.....	89

5.2. 衛星画像の入手の仕方	90
5.3. 主要な衛星画像の一覧とその利用	91
<b>6. 地形図の利用</b>	<b>93</b>
6.1. 地形図を用いた作業	93
(1) 距離・面積の測定 (2) 断面図の作成 (3) 尾根線・谷線 (4) 起伏量図・埋積切峰面図	
6.2. 地形図の読図(長野県飯田市を事例に)	96
(1) 段丘地形の読図 (2) 新旧の都市構造とその周辺の変化を読む	
<b>第7章 主題図の作成</b>	<b>101</b>
1. 主題図の分類	101
(1) 定性的地図と定量的地図 (2) 点データ地図、線データ地図、面データ地図	
(3) ドットマップ、等値線図、メッシュマップ (4) 主題図記号・凡例の尺度種別	
2. 論文に掲げられた主題図の例	103
3. 作図の際に注意すべき点	107
(1) 主題図の基図 (2) 記号の選択 (3) ドット記号の表現	
4. パソコンで地図を描く	110
4.1. 地図の作成ができるグラフィックソフト	110
4.2. 地図の作成手順	112
(1) ベースマップとなる地図画像を作成する (2) Illustrator および Inkscape による作成手順	
<b>第8章 統計とその利用</b>	<b>123</b>
1. 統計類	123
1.1. どんな統計があるのか	123
(1) 統計の性格 (2) 統計の種類 (3) 地理学でよく利用する基本的な統計	
1.2. 統計から何が読めるか	126
(1) 主な基幹統計について (2) その他の統計について	
1.3. どんな統計基準があるのか	131
(1) 日本標準産業分類 (2) 日本標準職業分類	
1.4. 統計利用上の留意点	133
(1) 統計の限界性 (2) 時系列的把握の難しさ (3) 入手の制約 (4) 統計地区単位	
(5) 属人統計と属地統計	
1.5. 統計はどこで得られるか	134
(1) 政府統計の総合窓口(e-Stat) (2) 図書館・資料館 (3) 官公庁 (4) 民間企業・各種団体	
(5) 書店と政府刊行物販売所	
2. 統計類の利用	136
2.1. 統計の地区単位	136
(1) 市区町村 (2) メッシュ (3) 調査区・国勢統計区 (4) 国勢調査小地域集計(基本単位区と町丁・字) (5) 人口集中地区(DID) (6) 大都市圏 (7) 商業集積地区 (8) 農業集落	
2.2. 統計図表	142
(1) 三角グラフ (2) ローレンツ曲線 (3) 対数グラフ (4) ランクサイズ分析 (5) 樹形図	
(6) バブルチャート	
2.3. 統計分析と計量地理学の手法	146
(1) 特化指数(特化係数、立地係数) (2) 修正ウィーバー法 (3) コーホート分析	
(4) 度数分布と階級区分 (5) 検定 (6) 相関係数と回帰分析 (7) 主成分分析と因子分析	
(8) クラスタ分析 (9) 数量化理論 (10) ネットワーク分析(グラフ理論)	
<b>第9章 GIS(地理情報システム)の利用</b>	<b>155</b>
1. GISの基礎知識	155
1.1. GISとは	155
1.2. GISソフト	155
(1) 無償で利用できるGISソフト (2) 無償で利用できるWebGISサービス	
(3) 有償のGISソフト	
2. GISで利用可能な地図・データ	159
2.1. 国土地理院のWebマップサービス	159



2.2. 国土地理院の地図データ	159
2.3. 国土交通省国土政策局の地図データ	160
2.4. 総務省統計局の地図データ	161
2.5. その他機関の標高データ	161
3. GISによる主題図作成と空間分析の事例	161
3.1. 地理院地図およびGoogle Earthによる地図・空中写真の閲覧と簡単な作図	161
3.2. jSTAT MAPおよびMANDARAによる主題図の作成	164
3.3. ArcGISによる空間分析	166
<b>第10章 フィールドワーク</b>	<b>169</b>
1. フィールドワークの理念と実際	169
1.1. フィールドワークの立案	169
1.2. フィールドワークに行く前に	170
(1) 最新の地図で現況を確認する (2) 古い地形図で地域の変化を調べる (3) 『角川日本地名大辞典』で地域・地名の概要を知る (4) 『日本地誌』『日本の地誌』で地域の概況をつかむ (5) 『地域経済総覧』等で地域の概要を把握する (6) ホームページで地方自治体の地域情報を見る (7) 関連する地域文献を調べる	
1.3. フィールドワークの心構え	173
1.4. 地域スケールと調査の精度	174
1.5. 観察記録の取り方と小道具	175
(1) フィールドノート (2) カメラ (3) メジャー・スケール (4) 方位磁石 (5) 温度・湿度計 (6) クリノメーター (7) ルーペ	
1.6. アンケート調査と聴き取り調査	177
(1) アンケート調査の実施 (2) 聴き取り調査の進め方	
2. 調査の実際例	180
2.1. 沖積低地の地形・地質調査	180
2.2. 歴史地理学からのまちなみ調査	182
2.3. 農業的土地利用の調査	184
2.4. 都市の調査	187
2.5. 商業・工業の調査	189
3. 資料の整理と分析——レポート・論文作成への道	191
3.1. 資料の整理・分類	191
(1) フィールドノートからのまとめ (2) 統計・アンケートの整理 (3) 雑多な資料の整理	
3.2. アイディアを紡ぐ	193
<b>第11章 プレゼンテーションと卒業論文の書き方</b>	<b>195</b>
1. プレゼンテーション	195
(1) 授業の運営システムとプレゼンテーションの大切さを知る (2) 論文題目の提出 (3) 配布資料の作成 (4) 映写資料(スライド資料)の作成 (5) 研究会や学会での口頭発表とポスター発表	
2. 卒業論文の書き方	202
(1) 分量 (2) 形式 (3) 論文構成(章立て) (4) キーワード (5) 文章 (6) 各々の部分で何を書くか (7) 図・表・写真 (8) 資料類 (9) 注と文献 (10) 謝辞 (11) 英文タイトル・英文要旨	
<b>第12章 地理学の歩み</b>	<b>210</b>
1. 地理的認識の展開	210
2. 近代の地理学史	213
3. 現代の地理学の動向	216
(1) 欧米 (2) 日本	
4. 地理学者群像	222



第13章 地理学関係の学会および学会誌.....	239
1. 学会の名称、所在地、会誌など(2016年12月現在).....	239
2. 学会大会におけるシンポジウムのテーマや共同課題(2012年~2016年).....	242
3. 国際地理学連合(International Geographical Union).....	245
4. 外国の主要地理学雑誌.....	246
第14章 地理学の応用.....	249
1. 地理学からの災害・防災研究.....	249
1.1. 研究に必要な知識と災害後の取り組み.....	249
1.2. 地理学と災害地研究.....	250
(1) 地震災害に関する研究 (2) 水害に関する研究	
1.3. ハザードマップによる地域災害の理解.....	251
(1) ハザードマップの種類 (2) ハザードマップの整備状況と入手・閲覧	
1.4. 災害発生時の自然地理的調査.....	253
2. 景観保全・地域活性化と観光.....	255
3. 地理学の新しいキーワード.....	260
(1) 21世紀のキーワード (2) 『ジオ・パル21』所収のキーワード一覧	
4. 読図に適した2万5千分1地形図一覧.....	264
各章リード文の写真説明.....	267
索引.....	268

見返し(表): 都道府県別白地図、日本の都市人口順位の変遷

(裏): 世界地図、世界各地の月平均気温・降水量

カバー袖(表): 国土地理院 2万5千分1地形図適用の地形図図式(地図記号)

(裏): 陸地測量部 五万分一地形図適用の地形図図式(地図記号)

## COLUMN

### 地理学を学んだ先輩たち\*

- ① 天気を地理学的な視点で捉える / 38
- ② 地理学を学ぶ過程で得たことが、大きな財産となっています / 39
- ③ 誰もが利用しやすい路線バスを目指して / 40
- ④ 国際社会に羽ばたく人をつくる仕事 / 41
- ⑤ 文部科学行政に「地理学教室」での「学び」が生きています / 42
- ⑥ より多くの方に地理情報を活用していただくために / 43
- ⑦ どうして地理学者になったのか? / 44
- ⑧ 夢だった旅行会社勤務に役立っている地理学の経験 / 45
- ⑨ 大学で地理学を学び習得した「学びへの姿勢」 / 46
- ⑩ 土地家屋調査士業務に地理学の知識が生きています / 47
- ⑪ 商品製造や通信販売の中にも地理学があります / 48
- ⑫ 博物館に地理学の知識が生きています / 49
- ⑬ 高等学校必修科目としての「地理総合」 / 21
- 国際地理オリンピック / 34
- 基礎科目、概論科目、教職科目としての地理学 / 36
- 日本学術振興会(JSPS) / 50
- 就活に効く地理学研究での経験 / 50
- なぜ電子検索だけに依存してはいけないのか? / 55
- 文献のオープンアクセス化と図書館コンソーシアム / 68
- 地形図の語源 / 70
- 日本測地系と世界測地系による日本の位置のちがいを / 71
- 入試問題での地形図の読図はもうけもの!? / 99

- 地図記号は世界共通か? また永遠のものなのか? / 100
- 歴史を学ぶのに地形図が必要な理由とは? / 100
- 地理教育における主題図の位置づけ / 106
- 階級区分図の表現ルールとは? / 108
- PowerPointで地図が作成できる! / 110
- 主題図の無い日常生活はあり得ない? / 122
- 統計分析だけで地理学研究はできるか? / 139
- GISで扱うデータの種類 / 156
- モバイルGISによるデータ収集 / 157
- どのようにすればセンスのある地図が描けるのか? / 168
- 海外フィールドワーク便利帖 / 172
- フィールドノート今昔 / 176
- 市役所・役場などの公的機関を訪れる際のマナー / 188
- フィールドワークの手引き書 / 194
- ゼミでの発表や卒論締め切り直前になぜパソコンやプリンタが故障するのか? / 202
- スマートフォンでのメールは論文執筆能力を退化させるか? / 204
- 地理学がGISで得たものと失ったものとは? / 205
- なぜ行き詰まってもすぐに諦めてはいけないのか? / 207
- 地図を回して見るのは邪道か? / 208
- 中世には全世界で科学が後退したのか? / 211
- 地理学史に関する近年の文献 / 238
- 査読付き学術専門雑誌ができるまで / 248
- 日本地理学会・人文地理学会の歴代会長 / 248

\*執筆者の所属は投稿時のもの





# イントロ

第1章 これから地理学を学ぶ人のために	10
第2章 大学で学ぶ地理学	23
第3章 地理学を学んで社会に出る	37

大学で地理学とその隣接分野をはじめて学ぶ人のために、その「入り口」から「出口」までを概観するのが「イントロ」の役目です。詳しい技能や技術、地理学の情報については「スタディ」で扱います。

第1章は地理学の「入り口」です。地理学特有の見方・考え方と技術を概観し、高等学校で「地理」を履修していない人のことも念頭に入れて、大学の地理学との接続をわかりやすく説明します。

第2章は大学で地理学を専門的に学ぶために役立つ情報の提供、いわば大学地理学の「本体」の概観です。地理学は文系・理系の両方にまたがる要素が多くあり、分析とともに総合という手法が重要な学問です。こうした地理学の特性を反映して、大学の様々な学部・コースで地理学を学ぶことが出来ます。また実際に開講されている科目の名称は大学によって異なりますが、最大公約数的な内容を示して、学生の皆さんがどのような心構えで取り組むかべきかを述べます。

第3章は「出口」です。地理学を学んでどのような分野に就職できるか、何をセールスポイントにできるかを、実際に日本各地の大学のさまざまな専門コースを出た卒業生の声もまじえて解説します。そのほか、在学中にとれる資格や免許、さらに大学院に進学して高度な研究をめざす人のための案内なども加えました。

この「イントロ」は高校生が大学での進路を考える際の道しるべとなり、高校教員が生徒の進路指導の際に活用できるはずです。

# 第1章 これから地理学を学ぶ人のために



本章はこの本全体のオリエンテーションの役割をもっている。読者は「はじめに」と本章をまず読んで、この本の全体像や基本姿勢を理解してほしい。高等学校で「地理」を履修しなかった人でも、迷うことなく入っていけるように配慮した。この本を手にする多くの人は、大学で地理学やその隣接関連分野を系統的に学ぼうとしている大学生だろう。1.では地理学で身につく考え方や技術をごく基本的なことから・概念からざっくり眺めてみる。2.では大学で学ぶ地理学と、高校までの「学校地理」との相違をみるため、小学校の地理的内容、中学校の地理的分野、高等学校「地理」で取り上げる事項を列举・比較してみる。本章は地理学の基本的考え方やスキルを知りたいと思っている小学校・中学校・高等学校の教員、さらには地理に関心ある一般読者のための導入部ともなっている。そのため、この章だけは、鍵となる地理学の基本用語や概念に英訳を意図的に多く付し、かつ太字で強調している。その語の詳しい意味は、地理学辞典や概説書でぜひ確認してほしい。

## 1. 地理学で身につく考え方と技術・技能

### (1) 地理学とはどんな学問か

ごく身近なわかりやすい話題から**地理学** geographyの門をたたいてみよう。これまでの読者の地理学に対するイメージは次の4つのいずれかではなかろうか。

- ① 地名が多く出てくる。② 地図とかかわる。
- ③ 旅や探検、未知の世界にかかわる。④ 環境とかかわる。

地理学で扱う対象は、地形や気候・植生から動物・家畜、人口、農業や商工業などの諸産業、村落・都市などの場、交通や通信・情報といった流れ、衣食住から宗教まで、間口はたいへん広い。**地表** the surface of the earthに存在するものなら、それが**位置** location、**場所** place、**地域** regionとむすびつくかぎり研究対象となるととってもいい。さすがに宇宙や地球の奥深いところにあるマグマなどは地理学の対象外だが。

かつて地理学は諸科学の母といわれ、哲学や歴史と並んで古い伝統を誇る学問である。その起源はギリシャ・ローマ時代まで遡れる。この文脈での地理学は、土地を描く geo-graphiaに発祥する、場所やそこで生起するあらゆる自然・社会現象を記述する学問全般の総称である。そこから天文学、地質学、海洋学、生物学、生態学などが分かれていった。古来、地理学では**記載/記述** descriptionが重んじられた。時間に関わる出来事・事象は歴史、場所に関わる事象は地理の領域とされた。しかしここでいう地理学は近代の学問体系としての地理学とは一部は重なるものの、決して同じでない。

上の③の未知の世界を知ろうとする人間の欲求は、その地域・場所に関わる情報——たとえばそこに行った人の探検旅行記など——という得体の知れないものを集める。幸運にもその場所に行きたくことができれば、植物や岩石を集め標本として持って帰ったり、絵として記録にとどめたり、文章でその態様を表現したりすることが可能となる。気温や湿度を測り、海の色や潮流を観察し、雄大

このプレビューでは表示されないページがあります。



## 第2章 大学で学ぶ地理学



大学で地理学を学ぶための情報提供がこの章の役割である。1.では地理学を専門とするコースがある4年制大学を中心に、どの大学で地理学が学べるのかを紹介し、その制度や現況について述べる。2.では地理学の専門課程や学際系学部のカリキュラムをとりあげ、その内容や履修のための注意・参考事項を記す。全国の大学は1990年代以降の大きな変革(大学設置基準の大綱化、大学院重点化、学校教員養成課程の改組)や近年の地域系学部の新設などの渦中にあり、地理学関連科目も大幅な学部・学科改組や大学院の拡充が進行しており現況ははなはだ流動的であることを断っておく。

### 1. 地理学を専門的に学ぶ

#### 1.1. 大学における地理学の源流

大学での地理学を体系的に学ぶ場としては、文学部・理学部・教育学部・その他の学部の4つに大きく分かれる。地理学が自然・人文両方にまたがるという性格を反映して、わが国の4年制大学の地理学専門課程は、理学部に置かれている場合と文学部に置かれている場合が多い。国公立大学の場合、東日本では地理学専門課程が理学部におかれて地形学・気候学・水文学などの自然地理学が中心となる場合が多く、また西日本では多くが文学部に置かれ、人文地理学の比重が大きい。その源をたどると、わが国で最も早く1907年に地理学教室が開設された京都帝国大学が文科大学(文学部)史学科に地理学専攻が置かれたのに対し、東京帝国大学では1911年に地理学講座が、1919年に地理学科が、理科大学(理学部)に設置されたことに由来している(第12章の表12-2-1参照)。

あとひとつの大きな流れが教員養成を目的とした学校の地理学である。旧制の小学校教員養成は師範学校(男女別)、中等学校の教員養成は高等師範学校・女子高等師範学校で行われた。そこでは地理が歴史と並ぶ重要科目であり、カリキュラムも本格的なものであった。1943年に専門学校に昇格した師範学校は、戦後の学制改革で国立大学の教育学部または教育大学となった(当初は学芸学部・学芸大学と呼ばれていた大学が多い)。1990年代以降、少子化等の影響により学校教員養成課程が縮小されたのに伴い、教育学部の名称が発展的に教育文化学部・教育人間科学部などに変更され、課程の改組が進んだ。その結果、「地域」・「環境」・「情報」・「国際」などの名称、あるいはそれらを組み合わせた字面だけでは実態がつかみにくい課程・コース、いわゆるゼロ免課程に地理学の教員が張り付いている場合も多い。さらに近年では、学校教員の大量退職に対応する形でゼロ免課程をなくして再び教員養成に特化する大学や、ゼロ免課程を中心に改組し、地域の諸問題に取り組む「地域」の名称を冠した学部が新たに設けられてきている。

なお、東京・広島にあった中等学校教員養成の男子高等師範学校、東京・奈良にあった女子高等師範学校は、戦後、東京教育大学(理学部)、広島大学(文学部・教育学部)、お茶の水女子大学(文教育学部)、奈良女子大学(文学部)となり、規模の大きな地理学教室となった。

このプレビューでは表示されないページがあります。



# スタディ

第4章	地理学の諸分野と地域区分の概念	52
第5章	地理学研究のための基本文献と情報検索	61
第6章	地図類と空中写真・衛星画像の利用	69
第7章	主題図の作成	101
第8章	統計とその利用	123
第9章	GIS(地理情報システム)の利用	155
第10章	フィールドワーク	169
第11章	プレゼンテーションと卒業論文の書き方	195

第2ステップの「スタディ」は、上記の8つの章から構成されています。いずれも初学者が無理なく学べるように留意して、地理学の基礎となる知識・情報・技術を記述するように努めました。

これらの章を通じて皆さんは、地理学の奥深さ、面白さ、そして大いなる応用性や可能性に気付くに違いありません。また、地域経済学、地域社会学、地域環境学、地域政策、観光学など、さまざまな関連分野を学ぶときにも、地理学の基礎知識が多くの場面で活用できることに気付くでしょう。

地理学の研究成果は、それと触れあわないで日常生活が送れないほど現在社会を生きる我々にとって必須のアイテムになっています。それに気付いていない現代人は多いのですが、それは地理学の基礎が我々にとって「空気」のように不可欠な存在であり、それが無くては不便を極めてしまうことを意味しています。

たとえば、スマートフォンやカーナビゲーションでの現在地や目標物の確認、新聞やテレビのニュースや歴史教科書に出てくる略地図、地域防災マップ、詳細な各地の天気予報情報、これらは地理学の研究成果なしでは不可能なものばかりです。

このように大切に欠かすことのできない知識や技能を、本書を紐解きながらしっかりと身につけ、現代を生き将来を背負う国際人として教養と実践力のある人になってください。



## 第4章 地理学の諸分野と地域区分の概念



地理学はどのような分野に分けられているのだろうか。興味や関心を持てる分野に誰もが辿りつけるのだろうか。地理学の研究対象は、国や地域、そして時代によっても異なっているが、非常に多岐にわたっていることは確かである。それは地理学の研究対象が地球上のあらゆる場所で見出せるからにほかならない。まずは自分の趣味や関心事を考えてみよう。たとえば、登山が好きな人であれば地形学で山岳地形を研究できるし、鉄道や飛行機の好きな人であれば交通地理学、ショッピングが好きなならば商業地理学や流通地理学がそれぞれ研究できる。好きなことを研究すれば、自信と専門知識を持って好きな仕事に就ける可能性も高くなる。この章では、地理学の多様な研究分野を、日本地理学会の名簿、新旧の『地理学文献目録』をもとに解説する。また、地域調査に不可欠な地域区分の概念についても分かり易く説明する。

### 1. 地理学の分野の分け方

#### 1.1. 伝統的な分野の分け方

地理学は通常、系統地理学(一般地理学)と地誌学(特殊地理学)に大別される。前者は地域の特色を構成している要素を分析的に取り上げ、後者は個々の具体的地域を総合的に取り上げる。これらの両方が互いに補完して地理学を構成している。事実、地理学の学術専門雑誌に載った研究論文のタイトルをみると、それが分かる。純粋に系統地理学または地誌学のいずれかだけに属する研究は稀で、大半の研究事例は、両者が補完し合ったものである。たとえば「○○における△△の研究」という論文タイトルであれば、「○○における」の部分は、地誌学的に事例地域を限定するものであり、「△△の研究」の部分は、テーマを絞り込む役割を果たして系統地理学的である。

系統地理学はさらに、自然地理学と人文地理学の2つに分けられる。自然地理学は、地形学、気候学、水文学などの自然現象を主に扱う研究分野である。他方、人文地理学は、農業地理学、工業地理学、交通地理学、観光地理学、人口地理学、都市地理学、社会地理学、文化地理学など、人類の活動を主に扱う研究分野である。

そのほかに、歴史地理学という分野もある。地理学的主要な研究対象は、通常は現在(または現在につながる少し前)の地域であるが、数十年～数千年前の地域を扱うのが歴史地理学である。歴史地理学では歴史学との交流も盛んで、数千年前の環境復原では古代史や考古学との接点も多い。さらに歴史地理学は、系統的歴史地理学と地誌的歴史地理学(歴史地誌学)とに分けられる。もちろん、系統的かつ地誌的な研究も珍しくない。

以上のような分野分けは、あくまで一般通念を述べたものであり、国や地域、時代、研究者によっては異説もある。さらに、近年における社会情勢の変化、地理学そのものの変化が相まって、自然地理学と人文地理学の両方に深く関わる研究分野にも、多くの研究者が取り組むようになってきた。たとえば環境地理学や地理情報システム(GIS)は、自然・人文の一方だけに含めることが困難である。また、地域開発や都市計画など周辺諸領域との関連性が高い分野は、地理学に含めるべきか否かで意

このプレビューでは表示されないページがあります。

## 第5章 地理学研究のための基本文献と情報検索



分野を問わず、研究を進めるためには、単行本や論文などに目を通しておく必要がある。それが自分の研究の位置づけや目的設定のために不可欠だからである。本章では、まず初学者のために「講座」・「大系」というようなシリーズ形態で出版された、比較的新しい書籍を紹介する。また、これらの中に出てくる専門用語や地名に関して詳しく知ろうとするときに参照すべき「辞典」類を挙げる。少し慣れると、興味や関心のあつた分野の単行本や論文を読むことが必要になるが、こうした文献を検索するための「文献目録」類についても紹介する。最後に、近年において著しい発展を遂げたインターネットを介した情報検索について解説する。これらのツールを駆使して、自分の研究を進めていくための手がかりを、積極的につかんでほしい。

### 1. 講座・大系・辞典類

#### 1.1. 講座・大系類

ここでは、1990年以降に刊行開始または刊行完結したシリーズ(未完のものについては刊行開始年を基準にした)について記載した。それ以外については、全巻数が不詳かつ未完と思われるものを含めて主要なものをピックアップし、講座・大系の名称や出版社などの情報を記すにとどめた。出版年が古いものについては、既に書店等で入手不可能なものもあるが、必要な場合は図書館を活用して積極的に文献と対面してほしい。その際、国立国会図書館の資料検索システムNDL-OPACも有用である。古い講座本であっても、巻ごとの詳細がある程度わかるからである。

- (1)『地理学講座』全6巻 古今書院 1987～1991年
- (2)『大学の地理学』(翻訳本)全3巻 古今書院 2000～2001年
- (3)『地理学基礎シリーズ』全3巻 朝倉書店 2007～2008年
- (4)『東京学芸大学地理学会シリーズ』全4巻 古今書院 2007～2009年
- (5)『自然地理学講座』全5巻 大明堂 1978～1990年
- (6)『日本の自然』全8巻 岩波書店 1994～1997年
- (7)『人文地理ゼミナール』全8冊 大明堂 1964～1991年
- (8)『日本の地形』全7巻 東京大学出版会 2000～2006年
- (9)『日本の地質』全9巻+増補版+別巻 共立出版 1986～2005年
- (10)『日本の歴史災害』全6巻 古今書院 2006年
- (11)『地理教育講座』全4巻 古今書院 2009年
- (12)『シリーズGIS』全5巻 朝倉書店 2009年
- (13)『地図で読む百年』全10冊 古今書院 1997～2006年
- (14)『日本の地誌』全10巻 朝倉書店 2005～2012年
- (15)『歴史のふりい都市群』全12巻 大明堂 1984～1997年
- (16)『図説大百科 世界の地理』全24巻 朝倉書店 1996～2000年
- (17)『世界地誌シリーズ』全4巻 朝倉書店 2011年



このプレビューでは表示されないページがあります。



# アドバンス

第12章 地理学の歩み	210
第13章 地理学関係の学会および学会誌	239
第14章 地理学の応用	249

「アドバンス」は「イントロ」や「スタディ」を学習し終えた人が、さらに地理学を深く究めるために役立つ情報や知識を満載した3つの章からなっています。そのため半期での授業や、地理学を専門としないコースの場合は省くこともできます。

第12章は日本と世界の地理学の歴史の大きな流れをコンパクトにまとめたものです。多くの研究者や著書・論文名、それに地理学や探検に関わる事項がぎっしりつまっていますが、本格的に研究をしようとする人はぜひ挑戦してください。

第13章は国内・海外の主要な地理学関連の学会の概要や学会が刊行する学術雑誌の情報を網羅しています。大学院生になると関係する学会に入って活動することも不可欠ですし、学部学生がゼミ・演習で文献を紹介するときの参考にもなります。

第14章は地理学の応用面の一端を知るための4つの“玉手箱”です。地理学が社会でどう活かされるかの事例を災害・防災研究から考える、景観保全・地域活性化に関係した選定登録物件の一覧、最新の研究動向の一端を学術雑誌のキーワードをヒントに考える、典型的な地形や産業・歴史景観を表現した2万5千分1地形図を日本全国から選りすぐって紹介するの4節からなっています。

この本ではできるだけ学習する順序にしたがって章を配列していますが、この「アドバンス」だけは必要なときに参照する性格のもので。

# 第12章 地理学の歩み



地理学が海外と日本でいかに発達してきたかを概観し、かつ、近・現代の地理学を理解するため重要な地理学やその関連分野の研究者を簡略に紹介する。1.では古代以来の地理学史について地図を主たる素材として地理的認識の発達からたどる。2.と3.は年表や図をまじえて、海外と日本における近・現代地理学の流れを概観する。4.は著名な地理学や関連分野で重要な貢献をした研究者を、人名事典風に紹介する。19世紀以降の著名な地理学者に加えて、現在、地理学辞典にもまだ掲載されていない気鋭の海外の研究者も含まれる。ただし日本については物故者に限定したので十分な数ではないが、3.の年表を手がかりにして探究を進めて欲しい。研究入門書のため、学説の論争や分野別・テーマ別の研究史などには触れず、その文献もあげていない。人名の解説の後の◇は代表的著作である。翻訳がある場合に紙幅の関係で邦訳名のみあげた場合が多いが、原著の刊行年は記した。古い出版社は省略してあるが、戦前期のものには国会図書館の近代デジタルライブラリーからネットで読めるものもある。

## 1. 地理的認識の展開

地理学 geography という言葉は、ギリシャ時代に生まれた土地を描く geo-graphia に起源をもつ。〈フィロソフィア=知識愛〉といわれる歴史と地理も渾然一体とした自然哲学的世界観がまず興った。紀元前700～500年頃の作とされる粘土板に描かれたバビロニアの地図では同心円状の環が大洋で、中心にユーフラテス川やバビロンの地が描かれている。古代ギリシャ人の地理観は環海(オケアノス)に囲まれた大地を円盤状と考えた。自らの住む世界を中心に置きながらも、可能な限りの情報収集によって知り得る世界を描いた。ギリシャのヘカタイオスによる『周遊記』(B.C. 6世紀)の地理的記述(図12-1-1)や、ヘロドトスの『歴史』にもこの世界観が顕著である。ヘレニズム時代はアレキサンダー大王の遠征で地理的知識が格段に広がるとともに、アレキサンドリアのエラトステネスによる地

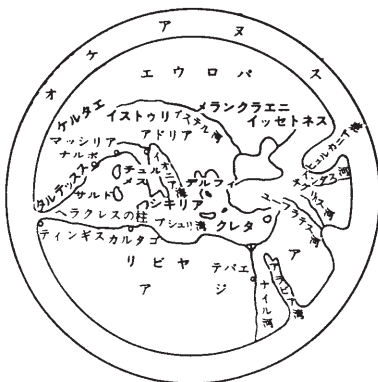


図12-1-1 ヘカタイオスの世界

〔藤岡謙二郎編『最新地理学辞典新訂版』大明堂、1979〕



図12-1-2 プトレマイオスの世界図

〔日本地誌研究所編『地理学辞典』二宮書店、1974〕

このプレビューでは表示されないページがあります。



# 索引

## A ~ Z

1 万分 1 地形図 73  
 20 万分 1 地勢図 73  
 2 万 5 千分 1 地形図 71, 93-94, 264  
 2 万 5 千分 1 土地条件図 81  
 5 万分 1 地形図 72, 93  
 ALOS 91-93  
 ArcGIS 158, 166-168  
 Atlas(地図帳・地図集) 69  
 CiNii 55, 66, 241  
 GIS 学術士 47  
 GIS(地理情報システム) 25, 52,  
 155-168, 180, 218, 221  
 Google Earth 12, 90, 110, 156, 162-  
 163  
 Google Scholar 55, 64, 67, 171, 222  
 GPS 36, 71, 175, 177, 181, 182  
 IGC(国際地理学会議) 34, 221, 245  
 IGU(国際地理学連合) 218, 245  
 Illustrator 110-122  
 Inkscape 110-122  
 J-STAGE 55, 66, 222, 241, 248  
 jSTAT MAP 157, 164  
 KAKEN 66  
 KJ 法 193  
 MANDARA 157, 164-165  
 Map(図葉) 69  
 Metropolitan District 140  
 NDL-OPAC 61, 66  
 Polynary Pattern 144  
 PowerPoint 110, 196-199  
 Primate Pattern 144  
 Rank-Size Pattern 144  
 TO 地図 211  
 WebGIS 155, 157, 162, 164, 253

## あ 行

アウトライン機能 194  
 アル・イドローシー図 211  
 アンケート調査 123, 170, 177-180  
 一次統計 123  
 一般図 70, 107  
 因子得点 151  
 因子負荷量 151

因子分析 142, 150  
 インターネット検索 63, 66-68

映写資料 196  
 衛星画像 13, 89-93  
 英文タイトル 208  
 英文要旨 208  
 エクスカーション 35  
 エスニックタウン 60  
 演繹法 17  
 円盤地図 211

大字 141  
 大型商業施設 140  
 オーバーレイ 167  
 オープンアクセス 68  
 尾根線 96  
 オルソ写真 88  
 オンライン・ジャーナル 239

## か 行

海外フィールドワーク 172  
 回帰分析 149  
 階級区分図(コロプレス図) 101,  
 103, 107, 108, 164  
 外邦図 79  
 概論(科目) 31  
 科学的地理学 212  
 学芸員資格 49  
 学際的 25  
 学習指導要領 18, 21, 22  
 可視性 197  
 カシミール 3D 156  
 仮製地形図 79  
 画素数 199  
 学会 239  
 学会誌 239  
 学界展望 64  
 学校地理 18-22, 106  
 可読性 197  
 カメラ 177  
 カリキュラム 31  
 カリキュラムマップ 31  
 間隔尺度 178  
 環境地理学 52  
 環境問題 25

観光地理学 32  
 観察記録 175  
 官庁統計 123

キーワード 67, 203, 260  
 基幹統計 124  
 機関リポジトリ 68  
 聴き取り調査 84, 170, 177-180, 186  
 気候学 23  
 気候調査 35

起終点(OD)行列 151, 153  
 基準地標準価格 135  
 基図(ベースマップ) 107  
 機能地域(結節地域) 59  
 帰納法 17  
 基盤地図情報 159  
 起伏量図 96  
 基本図(実測図) 69  
 旧版地形図 75-79

紀要 25  
 教育学部 23  
 教員免許 34, 47  
 京都帝国大学 23  
 漁業センサス 124  
 距離尺度(間隔尺度) 103  
 寄与率 151  
 近世地理学 212

空間ネットワーク 60  
 空間的把握 38  
 空中写真 35, 85-88, 180, 183  
 熊本地震 250  
 クラスター分析 142, 152  
 グローバルスケール 34

景観論 218  
 経済センサス 124, 188  
 経済地理学 31, 34  
 経済地理学会 218  
 形式地域 59, 60  
 経団連 136  
 系統地理学(一般地理学) 34, 52  
 経年的変化 133  
 計量革命 55, 216, 221  
 研究倫理 170  
 建築確認申請 135

このプレビューでは表示されないページがあります。

## 執筆者紹介(\*は編者)

- \*野間晴雄 (NOMA Haruo) 1953年生。関西大学文学部教授。京都大学大学院文学研究科地理学専攻修士課程修了。アジア地域論、文化地理学、歴史地理学が専門。博士(文学)。『低地の歴史生態システム』単著、関西大学出版部、2009。『人文地理学事典』編集代表、丸善出版、2014。「ドイモイ30年と日越研究交流」地理61-1、2015。
- \*香川貴志 (KAGAWA Takashi) 1960年生。京都教育大学教育学部教授。立命館大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得退学。都市地理学が専門。『京都地図絵巻』共編著、古今書院、2007。『バンクーバーはなぜ世界一住みやすい都市なのか』単著、ナカニシヤ出版、2010。「少子高齢社会における親子近接別居への展望」人文地理63-3、2011。
- \*土平 博 (TSUCHIHIRA Hiroshi) 1966年生。奈良大学文学部教授。関西大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位修得退学。歴史地理学が専門。「近世陣屋と町の形態に関する再検討—陸奥国南部を事例として—」奈良大学紀要37、2009。「近世都市山口の町割と屋敷地割—米屋町・今市町・今道町の分析から—」奈良大地理16、2010。
- \*山田周二 (YAMADA Shuji) 1968年生。大阪教育大学教育学部教授。北海道大学大学院環境科学研究科環境構造学専攻博士後期課程修了。博士(環境科学)。自然地理学、地理教育学が専門。『高等学校新学習指導要領の展開 地理歴史科編』共著、明治図書、2010。「奈良盆地中西部における河川の氾濫による浸水範囲と土地利用との関係—土地利用学習の防災教育への応用の可能性—」新地理63、2015。「人工的に改変された山地・丘陵地の地形自然度評価」地理学評論74、2001。

- \*河角龍典 (KAWASUMI Tatsunori) 1971年生。故人。元・立命館大学文学部教授。立命館大学大学院博士後期課程地理学専攻修了。博士(文学)。自然地理学・歴史地理学・環境考古学・地理情報システムが専門。『京都の歴史GIS』共編著、ナカニシヤ出版、2011。『バーチャル京都』共著、ナカニシヤ出版、2007。
- \*小原文明 (KOHARA Takeaki) 1975年生。法政大学文学部准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。都市地理学が専門。「大阪市上六地区における都市再開発の社会的意義」地理科学60、2005。「土地所有の変遷にみる近現代—京都市岡崎・南禅寺地区を事例に—」日本都市学会年報47、2013。「東京における外資系企業の集積と立地変動」法政大学経済研究所・近藤章夫編『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社、2015。

- 浮田典良 (UKITA Tsuneyoshi) 1928年生。故人。京都大学名誉教授。京都大学文学部史学科地理学専攻卒業。歴史地理学、農業地理学が専門。文学博士。『北西ドイツ農村の歴史地理学的研究』単著、大明堂、1970。『地理学入門』単著、大明堂、1995。『地図表現ガイドブック』共著、ナカニシヤ出版、2004。『オーストリアの風景』共著、ナカニシヤ出版、2015。

- 池田 碩 (IKEDA Hiroshi) 1939年生。奈良大学名誉教授。立命館大学大学院地理学専攻修士課程修了。自然地理学・地形学が専門。『花崗岩地形の世界』単著、古今書院、1998。『1995.1.17 大震災と六甲山地 (CD-ROM版)』建設省近畿地方建設局、2000。『自然災害地研究』単著、海青社、2014。

- 戸所 隆 (TODOKORO Takashi) 1948年生。高崎経済大学名誉教授。日本地理学会会長。立命館大学大学院地理学専攻修士課程修了。都市地理学・地域政策学が専門。文学博士。『都市空間の立体化』単著、古今書院、1986。『商業近代化と都市』単著、古今書院、1991。『地域政策学入門』単著、古今書院、2000。『観光集落の再生と創生』単著、海青社、2010。

- 藤井 正 (FUJII Tadashi) 1957年生。鳥取大学地域学部教授。京都大学大学院地理学専攻修士課程修了。都市地理学が専門。「大都市圏における構造変化研究の動向と課題」日本都市社会学会年報25、2007。『地域政策入門』共編著、ミネルヴァ書房、2008。『新版図説大都市圏』共編著、古今書院、2010。

- 本書に掲載した地図は国土地理院発行の2万5千分1地形図、5万分1地形図、20万分1地勢図、2万5千分1土地利用図、2万5千分1土地条件図を複製したものです。
- Adobe, Adobe Photoshop, Adobe Illustratorは、Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社)およびその子会社の各国での登録商標もしくは商標です。
- Microsoft, Excel, Word, PowerPoint, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 10は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Google Earth, Google MapsはGoogle Incの商標です。
- ArcGISは、米国ESRI社の登録商標です。
- 一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- その他本書に記載されている会社名、製品名、プログラム名、サービス名などは、一般に各社の商標および登録商標です。
- なお、本書に記載されている会社名・製品名、プログラム名、サービス名などには、商標表示®、TMを付記していません。

英文タイトル

Geo-Pal NEO : Handbook for Geography and Field Studies [Second edition]

## ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖 [第2版]

発行日——— 2012年3月31日初版第1刷  
2017年4月15日第2版第1刷

定 価——— カバーに表示してあります

編 著 者——— 野 間 晴 雄  
香 川 貴 志  
土 平 博  
山 田 周 二  
河 角 龍 典  
小 原 丈 明

発 行 者——— 宮 内 久



海青社  
Kaiseisha Press

〒520-0112 大津市日吉台 2-16-4  
Tel. 077-577-2677 Fax. 077-577-2688  
http://www.kaiseisha-press.ne.jp/  
郵便振替 01090-1-17991

- ISBN978-4-86099-315-3 C0025 ● 落丁乱丁はお取り替えいたします。
- Copyright © 2017 ● Printed in Japan